

〔研究ノート〕

サルデーニャで開かれた世界民俗舞踊祭への  
日本人参加者の観光行動

小 林 勝 法

〔Research Note〕

Behavior of Japanese Participants during in the  
International Folk Dance Festival in Sardinia

Katsunori KOBAYASHI

**Abstract**

A purpose of this study was to do examination of a study method of a sightseeing action of an event tourist except sports by investigating a sightseeing action of the Japanese dancing group which participated in world folk dancing festivals opened in Sardinia, Italy in July, 2005.

However, much result was not provided for reasons bellows.

- (1) A number of the samples being a little : The tourists were 33 people, and the respondents of questionnaire survey were 25. This number that was not good for quantitative analysis.
- (2) A homogeneity of a member of a participation group being low : Their experience and consciousness of dancing were too various to extract some tendencies.
- (3) The festivals being a busy event : Because there was little free time, it was limited in the time for sightseeing.

Future research themes will be nominated as follows;

- (1) Intend for an event with much number of the samples.
- (2) Intend for an event causing a sightseeing action of a participant.

**I. 問題の背景と本研究の目的**

単に行楽や観光を目的に旅行するのではなく、スキーやゴルフ、スキューバ・ダイビングなどを楽しんだり、マラソン大会に参加したり、スポーツ競技会を観戦したり、応援したりする旅行者が増えている。このようにスポーツやスポーツイベントへの参加・観戦・応援を主目的として旅行することをスポーツ・ツーリズムという。近年ではスポーツイベントを海外旅行市場に積極的に組み入れてビジネスを展開しようとする旅行者やスポーツ産業が増加しているが、このスポーツ・ツーリズムに関する国際会議が1986年にイスラエルで開かれて以来<sup>1)</sup>、研究も盛んに行われるようになってき

---

<sup>1)</sup> Sport Tourism International Council - Research Unit of Greeceのホームページ  
<http://www.sport-tourism.com/ENpages/MainEN.html> (2006. 5. 23現在)

た。

国内でもこれまでに、スポーツ・ツーリストの参加動機や観光行動、開催地域への経済効果などに関する研究が報告されている<sup>2)～4)</sup>。

しかし、音楽や舞踊の祭典など、スポーツ以外のイベントに参加するツーリストの観光行動に関する研究は管見するところ行われていない。

そこで、本研究では、スポーツ・ツーリズムの観光行動研究の成果を参考にして、2005年7月にイタリアのサルデーニャで開かれた世界民俗舞踊祭へ参加した日本人舞踊団体の観光行動を調査することで、スポーツ以外のイベント・ツーリストの観光行動研究の方法に関する検討をしたいと思う。

## II. 研究の方法

まず、研究対象とした世界民俗舞踊祭の概要について述べ、次に日本から参加した舞踊団体の概要と公演内容を述べる。そして、実施したアンケート調査について述べる。

### 1. 世界民俗舞踊祭の概要

世界民俗舞踊祭は地中海に浮かぶイタリア第2の島、サルデーニャ島で前半と後半に分けて開催された。2005年7月9日から13日にサルデーニャ南部のクアルトゥ・サンタ・エレナ市で、7月14日から19日には北部のイッティリ市とテンピオ・パウザニア市を中心とした周辺市町村で開催された。



サルデーニャ各地の舞踊祭のポスター

それぞれの市町村が主催するこの舞踊祭は国際民族芸能組織委員会（C.I.O.F.F.）のイタリア支部の協力によって運営された。C.I.O.F.F.（Conseil International des Organisations de Festivals de Folklore et d'Arts Traditionnels）とはユネスコの協力団体のひとつで、「民族の文化の継承と振興活動を通じて国際交流の推進と、世界の友好、平和への貢献」を目的として1970年に創設された国際機関である。

また、2005年は日・EU市民交流年として制定されており、そのイベントとしてこの舞踊祭は日本外務省に登録されていた。

どちらの舞踊祭も20年前後の歴史を持つが、日本からの参加は今回が初めてであった。参加団体は、日本の他にオーストリア、ブラジル、台湾、グルジア、ハンガリー、メキシコ、スペインの8カ国と

<sup>2)</sup> 野川春夫・山口泰雄、国内スポーツ・ツーリズムに関する研究—冬季スポーツイベントを事例として、学術研究紀要（鹿屋体育大学）第11号、1994年、pp.103-113

<sup>3)</sup> 工藤康宏、スポーツ・ツーリストの観光行動と経済効果に関する研究、上智大学体育（上智大学体育学会）第31号、1997年、pp.15-26

<sup>4)</sup> 富山浩三、スポーツツーリストの観光行動——北九州市の観光集客施策への提言、北九州大学文学部紀要（北九州大学）第6号、1999年、pp.51-62

サルデーニャ各地からであった。どの団体もほぼ30名くらいの規模であった。各国からの参加団体は、宿舎が提供され、1日3食と日当（3ユーロ＝約425円）が支給された。また、サルデーニャ内の移動はバスが用意された。



オーストリア



ブラジル



サルデーニャ

舞踊を披露する会場は、街の広場や運動競技場、城壁跡などにつくられた特設ステージで、祭りは夜の9時過ぎから行われ、終了は12時を過ぎることもたびたびであった。したがって、宿舎に戻るのには2時過ぎになっていることもあり、それから夕食を取ったり、各国との交流パーティが開かれたりした。

日中は、市長から招待された式典に参加して、その後、町中をパレードしたり、日曜日には教会のミサに招待されたりというイベントが用意されていた。

国際交流をする機会は、日常的には各国の参加団体や宿舎で世話をしてくれるボランティアと接する機会があったし、地元住民との交流パーティもいい機会であった。また、公演のない日には、参加国で一緒に海水浴に行ったこともあった。



広場での演舞

## 2. 日本からの参加団体とその公演内容

日本からは初めて招待された民俗舞踊研究会は国際基督教大学で長く日本民俗舞踊を教授してきた近藤洋子・元国際基督教大学助教授が主宰する団体で、その構成員は近藤に授業や課外活動で指導を受けた学生や卒業生、学外で行っている稽古会に参加している市民、そして、近藤の知人の舞踊研究者である。世界民俗舞踊祭への参加の経緯や公演の成果については、横澤が詳しく報告している<sup>5)</sup>。

演目は以下に示す5演目で、いずれも日本各地に伝わる民謡や神楽で国や県の重要無形文化財に指定されている。

- ①こきりこ（富山県五箇山）
- ②西馬音内の盆踊り  
（秋田県羽後町）
- ③鹿島踊り（東京都奥多摩町）
- ④綾子舞（新潟県柏崎市）
- ⑤三番叟（岩手県早地峰）



こきりこ



西馬音内の盆踊り

5) 横澤喜久子、世界伝統民俗舞踊フェスティバル、養生学研究 第4巻第1号、2006年、pp.31-35



鹿島踊り



綾子舞



三番叟（神楽）

ヨーロッパと中南米各国の舞踊がステップを中心にした男女二人組の形式で、テンポも速く、明るく、歓びを表現していたものが多いのに対し、日本のそれは輪踊りや組踊りの盆踊りと山伏神楽であり、ゆっくりとしたテンポの感情を抑えたものが多く、様相を異にしていた。

### 3. アンケート調査

日本から参加した33人全員を対象とし、現地で質問用紙を配布し、現地あるいは日本で回収した。25人から回答が得られた（回収率75.6%）。回答者の年代別内訳は表1の通りであり、女性、特に20歳代までの女性が多い。

表1. 回答者の年齢

	～20代	30代	40代	50代	60代～	計
男	2	1	3	2	1	9
女	7	1	2	3	3	16
計	9	2	5	5	4	25

調査の内容は、年齢や性別、舞踊の経験などの回答者の属性の他、参加目的、観光行動と支出、国際交流や舞踊に対する意識などを尋ねた。詳しくは後掲の「質問票」を参照されたい。

## Ⅲ. 結果及び考察

### 1. 回答者のプロフィール

回答者は同質であるとは言えず、その属性からおもに3つのグループ、すなわち、専門家グループ、学習者グループ、関心者グループに分けられる。専門家グループは舞踊家であったり、舞踊教育に携わっている者たちで30歳代から60歳代の男3名、女3名である。学習者グループは大学の課外活動や授業などで舞踊を学んだり趣味として行っている者たちで20歳代を中心とした男3名、女10名である。関心者グループは世界民俗舞踊祭や日本民俗舞踊に関心を持った者たちで参加するために舞踊を稽古した40歳代から60歳代の男3名、女3名である。

回答者の年代は学生が多いこともあって20歳代までが9人と最も多い。30歳代は2人と少ないが、その他の年代は4～5人とほぼ均等である。（表1参照）

回答者の職業は、「学生」と「パート・アルバイト」「自由業」「無職」で過半数を占める。参加す

るためには1週間を超える長期の休暇をとれるような状況にあることが必要なのでこのような結果となったのであろう。常勤職にしても大半が大学教員であって、長期の出張が取りやすい立場にいる。(図1参照)

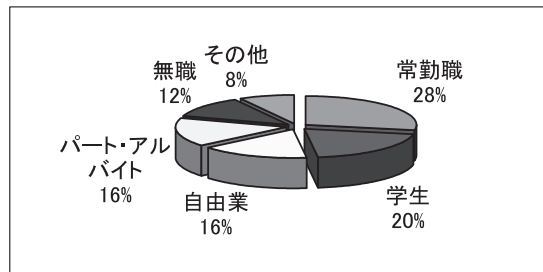


図1. 参加者の職業

2005年4月上旬に参加者の顔合わせが行われ、その日を皮切りに渡航まで、週に3～4回の稽古の機会が設けられた。できるだけ多くの稽古ができるようにとの配慮からである。また、5月の連休には1泊2日の合宿稽古も行われた。これらの稽古会のうち、参加した日数は2日から50日で平均値は13.3日、中央値は10日であった。

そして、舞踊公演の出演回数は0回から100回で平均値は14.5回、中央値は3回であった。0回が8名、1～3回が5名であり、半数(13名)がほとんど公演経験のないまま、舞踊祭本番に望んでいた。

舞踊公演鑑賞の回数は、0回から100回で平均値は24.8回、中央値は20回であった。当然のことながら、年齢によって差が大きいし、舞踊の専門家は鑑賞回数が多い。

祭り見物の回数は、国内では、0回から100回で平均値は24.0回、中央値は10回であった。また、海外では、0回から10回で平均値は2.8回、中央値は2回であった。これも年齢によって差が大きい。

海外旅行(観光やビジネス含む)の回数は0回から50回で平均値は11.7回、中央値は7回であった。イタリアへの渡航経験がある者は9人で、大半は初めてのイタリア旅行であった。

参加した目的(複数回答可)は、「イタリアに行ってみたかったから」と「国際交流したいから」がともに15人で最も多く、次いで「舞踊を公演するのが好きだから」(11人)であった。イタリアでの海外公演が大きな目的となっていることがうかがえる。(図2参照)

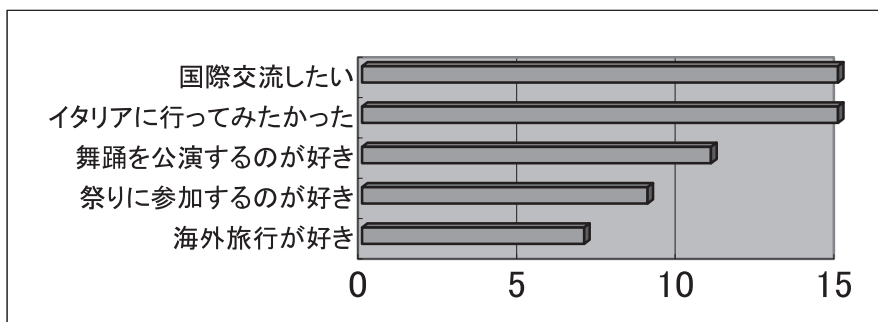


図2. 参加目的



参加にあたって準備したこと（複数回答可）では、「ガイドブックやホームページなどによる観光情報の収集」が14人で最も多く、次いで、「イタリア語の学習」（8人）であった。

## 2. 滞在中の行動と支出

滞在中にしたこと（複数回答可）で最も多いのは「サルデーニャ観光」で22人であった。次いで、「海水浴」（15人）、「国際交流」（13人）である。海水浴はオプションとしてスケジュールに組み込まれていたものであるから、回答が多くなっている。「国際交流」のおもな内容は、参加各国や町人とのパーティでの交流であり、パーティが国際交流の上で大きな役割を果たしていることがわかる。「異文化体験」（8人）では各国の舞踊や言葉などが挙げられている。（図3参照）

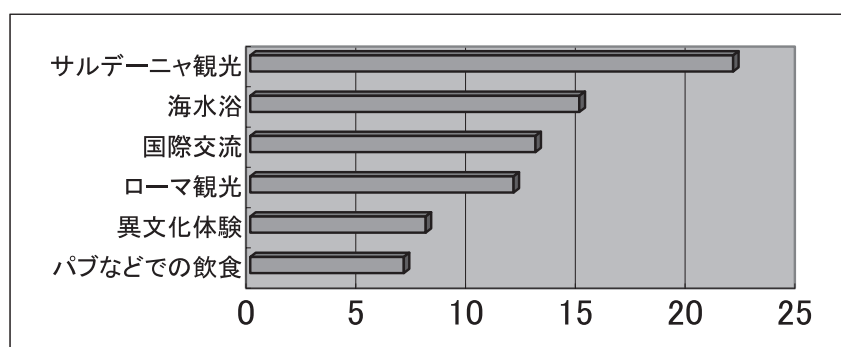


図3. 滞在中にしたこと

サルデーニャでの公演の前後に「ローマ観光」した者は12人に過ぎず、半数は飛行機の乗り換えでローマを通過しただけであった。

滞在中に個人で支出した金額を表2に示した。支出金額の回答は面倒なのか、回答は20人と少なかった。前半のみ参加した9人と後半のみ参加した5人、全日程参加した6人に分けて、平均値と最小値、最大値を示してある。

表2. 滞在中の個人支出

	前半のみ(9人)	後半のみ(5人)	全日程(6人)		合計
			前半	後半	
交 通 費	5,500 0～15,000	820 0～1,500	250 0～1,500	42 0～250	292 0～1,500
飲 食 費	1,767 0～5,000	2,112 560～5,000	600 0～1,500	1,750 200～5,000	2,350 700～5,100
土産物代	10,578 0～30,000	11,668 0～30,000	6,083 0～20,000	20,083 1,500～60,000	26,167 2,500～80,000
娯 楽 費	1,119 0～5,000	210 0～840	292 0～500	625 0～3,000	917 0～3,500
そ の 他	3,750 0～30,000	12,140 0～30,000	2,200 0～13,000	500 0～3,000	2,700 0～13,000
計	22,172 3150～75,000	26,744 6,020～62,000	9,425 950～24,000	23,000 10,500～60,950	32,425 13,700～81,850

（注）単位：円、上段：平均、下段：最小～最大

サンプル数が少ない上、個人差が大きいので、精度の高い分析が難しいが、次のようなことが言えよう。

- ①全般的に支出が少ない。これは、宿泊費と食事費を主催者が負担していることと自由時間が少ないため交通費や娯楽費が少ないからと考えられる。
- ②支出総額の5割近くが土産物代である。そして、全日程参加したものは前半よりも後半に多くの支出をしている。
- ③支出総額は「前半のみ」と「後半のみ」ではほとんどと差がない。「全日程参加」はこれらの1倍半くらいとなっている。
- ④支出額に個人差が大きい。これは、おもに年齢にともなう収入の差に起因するのではないかと推察される。

以上、滞在中の行動とそれを裏付ける支出を見てきたが、いわゆる一般的な観光行動は低調だと言えよう。これは、自由時間が少ないことと長期の公演旅行のため、前後にオプションとして観光を加えることが難しかったためと推察される。野川らはスポーツイベントの実証的研究から「早朝から夕方までのイベント・プログラムが観光活動を阻害している」と結論づけているが、本調査対象の舞踊祭の場合も同じ理由であると思われる<sup>6)</sup>。主たる行事が1日で終わるイベントの場合、その日やその前後に観光を組み入れることが容易であるが、本研究の対象とした数日にわたって続けられるイベントの場合には観光を組み入れることが困難である。

### 3. 国際交流や異文化理解

ほとんどの回答者が「イタリア人と言葉を交わした」と答えている。また、同様にほとんどの回答者が「その他の外国人と言葉を交わした」と答えている。「国際交流したいから」を参加した理由としてあげるものが多かったが、その目的の一部は達成できたと言えよう。(図4参照)

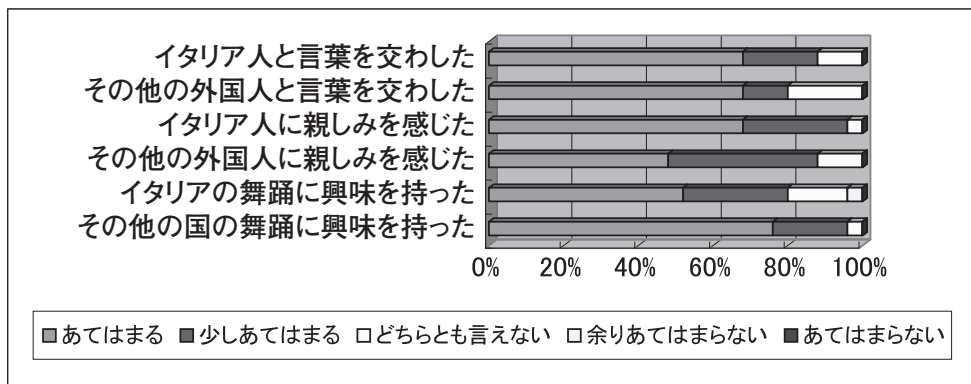


図4. 国際交流と異文化理解

そして、ほとんどの回答者が「イタリア人に親しみを感じた」と答えている。また、イタリア人よりは少ないものの「その他の外国人に親しみを感じた」についてもほとんどの回答者が「あてはまる」

<sup>6)</sup> 野川春夫・山口泰雄・萩裕美子、生涯スポーツイベントにおけるスポーツ・ツーリズムの実証的研究—スポーツ・ツーリストの滞在日数別比較、学術研究紀要（鹿屋体育大学）、第13号、1995年、pp.1-17

「少しあてはまる」と回答している。イタリア人とは現地ボランティアなどと毎日、接しているのに対し、その他の外国人とは同宿以外は公演の時に接するくらいであるので、このような差になったのであろう。しかし、親しみを持つという面では大きな成果が得られたと言えよう。

また、各国の舞踊にも興味を持ったものは多かった。

## まとめ

本研究の目的は、2005年7月にイタリアのサルデーニャで開かれた世界民俗舞踊祭へ参加した日本人舞踊団体の観光行動を調査することで、スポーツ以外のイベント・ツーリストの観光行動の研究方法に関する検討をすることであった。

しかし、研究対象とした団体や舞踊祭に関する以下の3つの理由からあまり成果が得られなかった。

- ①サンプル数が少ないこと：対象としたツーリストが33人であり、アンケート調査の回答者は25人と定量分析するにはふさわしくない数であった。
- ②参加団体の構成員の同質性が低いこと：舞踊の経験や意識が同質の団体であれば、それをベースに比較検討しやすいが、それらのばらつきが多くて、一定の傾向がつかめなかった。
- ③多忙なイベントであったこと：自由時間が少なかったので、観光行動をする時間も限られており、全体的に低調であった。

そこで、今後の研究課題としては次のことがあげられよう。

- ①サンプル数が多いイベントを対象とすること。
- ②参加者の観光行動を誘発するようなイベントを対象とすること。



## 〈質問票〉

2005.7.7-23

## サルデーニャ公演旅行調査

舞踊教育や国際交流のあり方を探ったり、公演旅行参加者の観光行動を明らかにする上で、この度のサルデーニャ公演旅行はまたとない調査対象となると思われます。この研究の成果は学会や研究誌に発表しますが、個人が特定できないようにいたしますし、皆さんからの回答は研究以外に使用することはありませんので、どうぞ、この調査にご協力下さいますようお願いいたします。

研究班一同

以下の各問においてあてはまるものを○で囲むか、数字を記入してください。

問1. 参加した期間 : 前半のみ ・ 後半のみ ・ 全日程

問2. 性別 : 男 ・ 女

問3. 年齢 : 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代～

問4. 職業 : 常勤職 ・ 自由業 ・ パート・アルバイト ・ 専業主婦

学生 ・ その他 ・ 無職

問5. 舞踊歴 : 職業として行っている ・ 趣味として行っている／いた

授業などで習っただけ ・ その他(具体的に )

問6. 今回の準備のために稽古した日数 : \_\_\_\_\_日くらい

問7. これまでの舞踊公演の経験回数 : \_\_\_\_\_回くらい

問8. これまでの祭り見物の回数 : 国内 \_\_\_\_\_回くらい 海外 \_\_\_\_\_回くらい

問9. これまでの舞踊公演鑑賞の回数 : \_\_\_\_\_回くらい

問 10. これまでの海外旅行の回数(観光やビジネス含む) : \_\_\_\_\_回くらい

問 11. イタリアへの渡航経験 : 有 ・ 無

問 12. 参加した目的(複数回答可) :

- ・ 舞踊を公演するのが好きだから
- ・ 海外旅行が好きだから
- ・ 祭りに参加するのが好きだから
- ・ イタリアに行ってみたかったから
- ・ 国際交流したいから
- ・ その他(具体的に \_\_\_\_\_)

問 13. 参加にあたって準備したこと(複数回答可) :

- ・ イタリア語の学習
- ・ 英語の学習
- ・ その他(具体的に \_\_\_\_\_)
- ・ 観光情報の収集: ガイドブックやホームページなど

問 14. 滞在中にしたこと(複数回答可) :

- ・ サルデーニャの観光
- ・ ローマの観光
- ・ 海水浴
- ・ パブなどでの飲食
- ・ 異文化体験(具体的に \_\_\_\_\_)
- ・ 国際交流(具体的に \_\_\_\_\_)

問 15. 滞在中の支出(個人で支出したもの) :

	交通費	飲食費	土産物代	娯楽費 (入館料、使用料など)	その他 (具体的に _____)
前半	_____	_____	_____	_____	_____
後半	_____	_____	_____	_____	_____

(大まかで結構です。単位は円をお願いいたします。前半後半で分けてお書き下さい。)

- |   | あてはまる  | どちらともいえない | あてはまらない       |
|---|--------|-----------|---------------|
| 問 16. イタリア人に親しみを感じた。                        | 5----- | 4-----    | 3-----2-----1 |
| 問 17. その他の外国人に親しみを感じた。                      | 5----- | 4-----    | 3-----2-----1 |
| 問 18. イタリアの舞踊に興味を持った。                       | 5----- | 4-----    | 3-----2-----1 |
| 問 19. その他の国の舞踊に興味を持った。<br>(具体的に )           | 5----- | 4-----    | 3-----2-----1 |
| 問 20. イタリア人と言葉を交わした。                        | 5----- | 4-----    | 3-----2-----1 |
| 問 21. その他の外国人と言葉を交わした。                      | 5----- | 4-----    | 3-----2-----1 |
| 問 22. 日本の民族舞踊に関して理解がより深まった。                 | 5----- | 4-----    | 3-----2-----1 |
| 問 23. 各国の伝統文化に関して理解が深まった。                   | 5----- | 4-----    | 3-----2-----1 |
| 問 24. 参加して満足している。                           | 5----- | 4-----    | 3-----2-----1 |
| 問 25. 参加して良かったと思うことや大変だったこと、その他の感想を書いてください。 |        |           |               |

ご協力有り難うございました。記入後は帰国前に研究班員にお渡し下さい。